

科学研究費成果報告書「日本近代史料情報機関設立の具体化に関する研究」（基盤研究（B）
（1）、平成11・12年度、代表者伊藤隆、課題番号：11490010）より

出張調査報告書の概要と成果

史料の所在調査は、本研究の大きな柱であり、平成11年度と12年度の出張調査においては、九州地方と北海道・東北地方に重点をおき、中部地方と近畿地方、四国地方の調査に着手した。

以下は、当該年度において行なった調査対象機関や調査史料、成果などの概要を、調査の日付順にまとめたものである。記述形式や内容に若干の不統一があるのは、各調査者から提出された出張調査報告書をもとに作成したためである。

なお、本章の記述を参照される際の注意点であるが、収集した目録の内容の公開に関しては文書館への事前の確認が必要なものが含まれている。この点につき留意されたい。

①調査者 櫻井 良樹（麗澤大学外国語学部助教授）

出張期間 平成12年1月19日～1月22日

調査機関 藍住町歴史館「藍の館」（徳島県板野郡藍住町徳命字前須西）

調査実施日 平成12年1月19日～21日

調査史料

「阿州藍屋奥村家文書」：『阿州藍屋奥村家文書』として第1集から第6集まで発刊されている。史料の総点数約10万点以上のうち、約半分の5万点分までが目録化されている。目録化されているものの中には、家業の藍屋の経営関係史料以外に、徳島県関係についてはむろんのこと、貴族院議員をつとめていた関係から貴族院に関するもの、その他雑多な史料が存在することが確認された。

収集目録

藍住町教育委員会編『阿州藍屋奥村家文書』：第1巻（昭和61年）～第6巻（平成5年）。所蔵文書の目録と文書抜粋が記されている。

調査機関 同志社大学人文科学研究所（京都府上京区今出川通烏丸東入ル）

調査実施日 平成12年1月21日

調査史料

「留岡幸助文書」：明治・大正・昭和期の社会改良家。目録無し。マイクロ複製版で所蔵、書架所蔵番号のみコピー収集。目録がないために原物と所蔵記録を確認の上、すでに公刊されている『留岡幸助日記』（全5巻）と照合したところ、ほとんどの部分が翻刻されていることが判明。

「山室軍平文庫」：明治・大正・昭和期の宗教家。著作原稿、説教草稿、日記・覚書、蔵

書など 445 点、875 タイトル。

「靈南坂教会文書」：日本キリスト教団靈南坂教会から同志社大学への寄託文書のうち人文科学研究所受託となった資料。教会日誌や執事会（役員会）記録といった教会記録、名簿、教会刊行物、図書、書簡など、全 1433 点。

「近藤栄蔵文庫」：大正・昭和期の社会運動家（日本共産党・労農党・社会大衆党など）。目録として『近藤栄蔵文庫目録』を複写で入手。この文庫には、戦前の社会主義運動関係書籍の他に、社会大衆党をはじめとする政治関係運動のビラやポスター・パンフレット・雑誌・関係文書（自伝原稿・日記・ノート類・書簡など）が含まれている。

「海老名弾正史料」：明治・大正期のキリスト教の代表的指導者。目録に手筆の「海老名弾正史料一覧表」があり複写。日記・覚書、著作、書簡など。だが、簡単に内容を分類しただけで役に立つようなものではない。

『宮崎民蔵・寅蔵書簡集』：民蔵は寅蔵（滔天）の兄、明治・大正期の社会運動家。寅蔵は明治・大正期の志士、中国革命の援助者として知られる。マイクロ複製版（289.1 M606）。

「京都市上京区室町出水上ル近衛町の徳永晟彦所蔵」のもの。日付と宛名・発信人のみメモをとる。刊行されているか調査の必要あり。

収集目録

『山室軍平文庫目録』（同志社大学人文科学研究所、1998 年）

『靈南坂教会文書目録』（同志社大学人文科学研究所、1998 年）

『近藤栄蔵文庫目録』（同志社大学人文科学研究所、1969 年、複写）

「海老名弾正史料一覧表」（未刊、手筆、同志社大学人文科学研究所、1973 年、複写）

『石井十次資料館所蔵目録』（明治・大正期のキリスト教社会事業家、岡山孤児院創設。石井十次日誌・関係書簡、岡山孤児院の日誌・機関紙など 1800 余点。同志社大学人文科学研究所、1996 年）

『山本宣治関係資料目録』（大正・昭和期の政治家、衆議院議員〔労農党〕。所蔵図書・雑誌、日記・ノート・書簡など。同志社大学人文科学研究所、1968 年、複写）

『同志社徳富文庫所蔵目録』（著作目録、蔵書目録、徳富蘇峰著作年譜。同志社大学図書館、1960 年、複写）

成果

奥村家文書を目録化した『阿州藍屋奥村家文書』に関しては、東京での調査では第 1 集と第 2 集までしかその存在が判明しなかった。しかし、東京支店の所蔵にかかる戦前期の文書を含めて目録に記載されていない文書が多数有ることを聞き、調査を実施することにした。今回の調査により、目録はすでに第 6 集まで発刊された後に打ち切られ、目録化の再開は教育委員会での計画には入っていないことがわかった。しかしながら、目録化された史料に関しても、目録化された段階で蔵に無造作に戻されたとのことで、目録から文書を探すことは不可能な状態におかれている。目録作業にあたった人々も現在は運営にかかわっていないため文書を扱える人もおらず、目録の建物の改修作業が行なわれていたため

現物史料を見ることはできなかった。

同志社大学人文科学研究所については、前回のアンケート調査ではいくつかのキリスト教関係者の目録と文書の所蔵が確認されたが、『山室軍平文庫目録』、『霊南坂教会文書目録』、「留岡幸助文書」所蔵記録（複写）、「海老名弾正史料一覧表」（複写）、『近藤栄蔵文庫目録』（複写）を入手した。書庫内では、マイクロ複製版の『宮崎民蔵・寅蔵書簡集』（289.1 M606）を発見した。刊行されているかの調査の必要がある。なお、所蔵されているものではないが、同研究所の編纂による2つの文書目録『石井十次資料館所蔵目録』（寄贈）、『山本宣治関係資料目録』（複写）を入手、また大学図書館の所蔵にかかると『同志社徳富文庫所蔵目録』もコピーで入手することができた。

②調査者 中野目 徹（筑波大学歴史・人類学系助教授）

出張期間 平成12年1月23日～1月25日

調査機関 尼崎市立地域研究史料館（兵庫県尼崎市昭和通2-7-16）

調査実施日 平成12年1月24日

調査史料

同館が所蔵する史料の目録ではなく、山下幸子氏の執筆になる概要紹介「尼崎地域の古文書」1～3（『地域史研究』22巻3号〔平成5年3月〕、23巻2号〔平成5年12月〕、23巻3号〔平成6年3月〕所収）を収集してきた。目録はすべて館内閲覧室備え付けのもので、その一部は手書きのものである。市史編纂時代には第1集から第27集までの刊行目録があったが、これは1979年に終了している。その後20年間は、公刊されている目録はない。所蔵資料のほとんどはいわゆる自治体史のための収集史料である。また、同館が所蔵する家わけ文書以外の文書群についても、目録から拾い出してきた（下記の一覧参照）。

家わけ文書以外の文書群（公開分）一覧

「大井水利組合文書」

「尼崎市北部耕地整理組合文書」

「三平井水利組合御園部落農会文書」

「生津部落有文書」

「東武庫部落有文書」

「椎堂部落有文書」

「半丁村文書」

「尼崎製綱所争議関係史料」

「尼崎不当解雇反対同盟関係史料」

「神埼川、尼崎港湾改修関係史料」

「尼崎市役所秘書課所蔵史料」

「野々上・伊和村文書」

「武庫地区近代農業関係史料」

成果

尼崎市立地域研究史料館は、地域文書館・地域史文献センター・地域史研究室という三つの性格を有し、古文書・近現代文書、行政文書、ビラなど、尼崎および歴史的関連地域に関する文書や記録、史料類を収集・保存・公開している。当史料館が所蔵する近代日本史料について実地に調査するとの目的に則して、尼崎市域における近代史料の残存状況を把握することができた。所蔵史料は、市史編纂事業中に収集した家わけ文書が所蔵資料の中心であるが、阪神工業地帯特有の文書群も見られることが確認できた。

③調査者 土田 宏成（東京大学大学院人文社会系研究科・大学院生）

出張期間 平成12年2月8日～2月10日

調査機関 北九州市立中央図書館（北九州市小倉北区城内4-1）

調査実施日 平成12年2月8日・10日

調査史料（北九州市立中央図書館所蔵閉架書庫内資料）

a. 防空・空襲に関する史料。

「北九州防空演習彙報 昭和6年 乾」（井手伊親、小倉市立記念図書館、1931年）

「北九州防空演習彙報 昭和6年 坤」（井手伊親、小倉市立記念図書館、1931年）

「関門及北九州防空演習講習録 昭和9年7月」（関門及北九州六市国防協会、関門及北九州六市国防協会、1934年）

「北九州防空幹部演習記事」（十二師団司令部、1930年）

「空襲に因る関係書類綴 昭和19年6月以降」（司市防空本部・門司市防空本部）

b. 郷土部隊に関する史料

「第十二師団忠勇美譚」（第十二師団司令部、川流堂、1920年）

「第十二師団戦闘史」（佐藤嘉門、安部新聞舗、1911年）

「日露戦役三十周年 記念銘鑑」（中牟田亀治、西部報知新聞社、1935年）

c. 旧軍施設に関する史料。

「小倉造兵廠写真帖」（朝日新聞西部本社・朝日新聞西部本社、1943年）

「小倉造兵廠アルバム」（朝日新聞西部本社・朝日新聞西部本社、1943年）

d. 北九州五市合併に関する史料。

「五市合併に関する旧書類」（山縣勝一・北九州五市合併事務局）

「五市合併に関する参考綴 其の1 昭和24年度」（山縣勝一・北九州五市合併事務局、1949年）ほか多数あり。

収集目録

これらについて特別な目録はないが、北九州の図書館所蔵資料のすべてはホームページ http://www.city.kitakyushu.jp/~k5200031/index_2.html から検索が可能である。

調査機関 北九州市立文書館（北九州市小倉北区大手町 11 - 5）

調査実施日 平成 12 年 2 月 9 日

調査史料

「北九州市旧市時代資料」：明治期から昭和戦後期の門司・小倉・八幡・若松・戸畑市の行政資料。例規、要覧、事務報告書、統計、歳入歳出決算書、北九州五市合併資料、戦時資料、戦前期の市会速記録など。

「小林鉦業文書・小林関連文書」：明治期から昭和期に至る炭鉦経営に関する文書（大正期が中心）。485 点。

「北九州市小学校文書」：明治 30 年代から昭和 50 年代に至る北九州市小学校関係文書。堺町小学校、米町小学校、天神島小学校、小倉小学校。学校日誌、職員会決議録、学校行事記録、PTA 記録など。特に戦前・戦後直後の各種日誌類は、当時の教育や学校運営の実態を明らかにするもので、教育史、社会史の史料として極めて貴重である。まとまった形で残されており、歴史の変遷を追うことも可能。

「石崎敏行氏文書」：若松市議、福岡県議、衆院議員（1930～32、福岡県、立憲政友会所属）、九州化学工業社長。大正から昭和初期にかけての書簡類。私的關係、企業経営関係、政党・政治関係など。当時の地方政財界の動き、各種選挙への取り組みが分かる。

「柳田桃太郎資料」：門司市助役、同市長、参院議員（1965～77、福岡県、自民党）、第 2 次田中（角）内閣大蔵政務次官。門司市行政資料、北九州五市合併関係、国会関係、自民党関係、自民党福岡県連関係、書画、書籍など。戦後の地方・中央政界の動きを見るのに有効。

「濱田文書」：濱田良祐。小倉市長（1946～55）、戦後混乱期の小倉市復興に尽力。小倉市行政資料、北九州五市合併関係、小倉市一米軍関係（小倉市日米連絡協議会、小倉市日米合同諮問委員会）、小倉ステーションビル関係、小倉競輪関係、北九州大学関係など。これら一次史料以外にも、『北九州市産業史』、『北九州市公害対策史』、『北九州市土木史』

（いずれも北九州市産業史・公害対策史・土木史編集委員会編集、北九州市発行、平成 10 年）の編集に際して収集された複写史料などがある。

収集目録（いずれも公開には所蔵機関への確認が必要）

「北九州旧市時代資料目録」

「小林鉦業文書・小林関連文書目録」

「北九州市小学校文書目録」

「石崎敏行氏文書目録」

「柳田桃太郎資料目録」

「濱田文書目録」

成果

本調査では、平成 9/10 年度「予備的研究 成果報告書」でアンケート調査に「近代史料

の所蔵なし」との回答を得ていた北九州市立中央図書館に近現代史料の所蔵を確認できた。特に、「北九州防空演習記事」、「北九州防空幹部演習記事」は、昭和初期の陸軍が国内の防衛に関してどのような構想を持っていたのかを知ることができる史料である。また同じく「予備的研究 成果報告書」にはほとんど情報が掲載できなかった北九州市立文書館にも、多くの近現代史料があることが確認でき、目録を収集することができた。主な所蔵史料は北九州地域の行政資料のほか、地元政治家の個人文書などである。なお、副次的なこととして、今回の調査により、国立公文書館ホームページ上に北九州市立文書館のホームページ・アドレスが掲載されているが、実際にはホームページが存在しないことが分かった。

④調査者 古川 隆久（横浜市立大学国際文化学部助教授）

古川 江里子（青山学院大学大学院文学研究科・大学院生）

出張期間 平成12年2月17日～2月18日

調査機関 飯田市立中央図書館（長野県飯田市追手町2-677-3）

調査実施日 平成12年2月17日～18日

調査史料

a. 「伊藤大八関係文書」（目録有り）

目録は東京大学法学部近代日本法政史料センター原資料部作成のもの。現物は整理の上箱に収められて図書館3階の書庫に有り。マイクロフィルム（東京大学法学部近代立法過程研究会作成）も一緒に有り。

b. 「森本家資料」（目録有り）

整理された上、4つの箱に分けて図書館3階の書庫に有り。一部目録に不備があったため当方で追加目録を作成した。本来これらの史料と一体の史料である森本州平日記は須崎慎一氏（神戸大教授）の手元にあると思われる（須崎慎一「森本州平日記のこと」『日本歴史』482、1988年、参照）。なお整理番号B1～3のみゼロックスコピーによる副本が添付されている。

c. 「青年運動史関係資料」（目録有り）

『下伊那青年運動史』（昭和35年刊）執筆資料が寄贈されたものと思われる。整理された上、2つの箱に分けて図書館3階の書庫に有り。その他各町村からの移管分（「追加」となっている分）があり、調査時点ではマイクロフィルム化のため現物は確認できなかったが、3月半ば以後、マイクロ・現物共に閲覧可能となる予定である。また2つの箱に入っている分について若干目録に不備があり、当方で追加目録を作成した。新聞等の一部は分離して新聞雑誌の分類に移管されている模様。

d. 「（楯操氏寄贈）自由大学関係資料」

整理の上、箱1つに収められて図書館3階の書庫にあり。現物を所蔵せずコピーのみのものもあり。現物はゼロックスコピーによる副本が添付されている。一部目録に不備があ

り、当方で追加目録を作成した。

e. 「(新聞・雑誌類)」 目録有り

当地方のみで発行された新聞・雑誌類も多数所蔵している。正式の目録としては、『長野県公共図書館新聞雑誌目録』（平成8年4月1日現在 県立長野図書館）がある。本調査で入手した目録は図書館のコンピューターから打ち出されたもの。

収集目録

- 「伊藤大八関係文書目録」（東京大学法学部近代日本法政史料センター原資料部）
- 「大正～昭和初期 社会・思想活動関係資料目録（森本家資料）」（森本信也氏寄贈）
- 「鼎公民館所蔵 鼎青年団運動資料」（平成11年5月鼎図書館整理）
- 「青年史資料目録」
- 「鼎図書館所蔵史料目録 追加分」
- 「松尾支所保管文書目録」
- 「上郷青年会関係史料目録」
- 「河野村青年会関係史料目録」
- 「竜丘青年会関係史料目録」
- 「伍和村関係史料目録」
- 「和田村関係史料目録」
- 「座光寺村青年団関係史料目録」
- 「鹿塩青年会関係史料目録」
- 「旦開村青年団関係史料目録」
- 「下久堅青年会関係史料目録」
- 「川路村青年団関係史料目録」
- 「松尾村関係史料目録」
- 「千代連合青年会関係史料目録」
- 「竜江村関係史料目録」
- 「富草村関係史料目録」
- 「喬木青年団・富田青年団関係史料目録」
- 「大島村関係史料目録」
- 「壬生沢青年団関係史料目録」
- 「牛牧青年団関係史料目録」
- 「楯操氏寄贈 自由大学関係資料目録」
- 「飯田市立中央図書館受入資料一覧」

調査者作成追加目録

- 「自由大学関係資料 追加目録」（羽生三七関係資料ほか）
- 「青年運動史関係資料 追加目録」（戦後青年運動関係パンフレット類ほか）
- 「森本家資料 追加目録」（産業組合・農会関係ほか）

概況

すでに様々な研究で利用されている史料群も含む史料の所蔵調査であったが、極めて多量の史料が良く保存されていた。しかし整理は十分でないものもあり、そのためか十分使いこなされていない史料も多いと思われる。

⑤調査者 季武 嘉也 (創価大学文学部教授)
小宮 一夫 (政策研究大学院大学教務補佐員)

出張期間 平成 12 年 2 月 29 日～3 月 3 日

調査機関 福島県立歴史資料館 (福島県春日町 5 - 54)

調査実施日 平成 12 年 2 月 29 日・3 月 1 日

調査史料

「堀切家文書」

「苧宿仲衛文書」

「嶋原文書」

福島県立歴史資料館では、まず堀切家文書について調査した。『福島県立歴史資料館資料所在目録』第 2 集および第 22 集に堀切家文書目録とあるが、資料館の説明によれば、会津にある福島県立博物館にも近代関係の史料があるとのことであった。その目録 (『福島県立博物館調査報告第 35 集 堀切家寄託資料目録』) をみると量は多くはないが、堀切善兵衛・善次郎関係の資料があり、堀切家文書の調査は福島県立博物館に重点をおくことにした。次いで苧宿仲衛文書を閲覧する。時期的には大同団結運動期から初期議会期のものに目を通した。刈宿は、浜通り地方出身の自由民権運動家で、自由党系の有力政治家であったようだ。なお、刈宿仲衛文書については、『福島史学研究』第 32・33 合併号に一部目録があり、また苧宿俊風『自由民権家乃記録』(おそらく私家版で、大盛堂印刷出版部、1976 年) に一部翻刻されている。苧宿俊風氏は元福島県教育委員長で代々標葉神社神官だという。非常に興味深い資料だが、全体では 1 万点以上あり書簡が多く、整理に苦労しているとの話であった。また、『福島史学研究』第 54 号に、本宮町嶋原文書中の明治 23 年総選挙の町村別得票数が掲載されており、同誌を購入した。(以上、2 月 29 日)

『福島史学研究』第 54 号の記述中に県庁文書の中に同様の資料があるとの記述があった。県庁文書から『衆議院議員選挙』と分類された明治期の簿冊を閲覧したが、確かに明治 31 年の簿冊に存在した。明治 31 年総選挙 (第五回総選挙) の会津地方の町村別得票を写す。また、『議員選挙に関する書類 明治 25 年』という簿冊には、各郡での当時の民党の状況についての報告があった。それまで民党は居たが少なく、穏和派が多かったが、明治 23 年選挙を境に両者が明確に対抗するようになり、民党＝壮年＝空理空論、穏和派＝中堅＝着実と定義していた。さらに町村別に両者の力関係が示されており、各種選挙・教育事業・役場吏員選任等の問題で悉く対立したという。この種の資料は、調査者である小宮が関係する町田の自由民権資料館のほか埼玉・群馬にも所在の可能性があり、関東を中心にな

り体系的に分析することが可能であると思われる。（以上、3月1日）

収集目録

「福島県歴史資料館収蔵資料展目録」：1998年12月14日～1999年3月26日。

「『歴史資料館収蔵資料目録』（第一～三〇集）『福島県古文書緊急調査報告Ⅰ・Ⅱ』所収文書総目録」

糠沢章雄「1890年（明治23）7月 第一回衆議院議員総選挙における福島県第2区町村別得票数調べ ～本宮町大字大町 鳴原家文書～」 （『福島県史学研究』第54号、1991年9月、福島県史学会）

調査機関 福島県立博物館（福島県会津若松市城東町1-25 若松城公園内）

調査実施日 平成12年3月1日

調査史料

「堀切家寄託資料」

目録によれば、堀切家は、戦国時代末期に上飯坂村（現福島市飯坂町）に土着し、土地開発や水利事業のほか、酒造業や塩・漆・米などの仲買を営んでいた。とくに近代においては、経済界に進出するとともに政治との関わりを強めた。同家から福島県立博物館に寄託されている資料は、下に示すように文書資料をはじめ生活や生業に関わる多様な資料を含んでいる。

古文書 - 家

古文書 - 経営 - 土地

古文書 - 経営 - 生産・商業・金融

古文書 - 政治・行政

古文書 - 堀切善兵衛

古文書 - その他

書籍・出版物 など。

今回の出張では、このうち「古文書 - 堀切善兵衛」に分類される資料の調査を主たる目的とした。堀切善兵衛は、政治家として政友会に属し、衆議院議長や駐イタリア大使、貴族院議員を勤めた。政治に関する史料としては、1912（明治45）年5月30日の「衆議院議員当選証書」に始まり、大蔵省参事官・農商務省参与官といった辞令類がある。書簡には吉田茂・高橋是清・原敬・犬養毅など内閣総理大臣経験者や、重光葵といった政治家からの来翰が含まれている。ただし、書簡類は閲覧不許可とされた。書簡類の閲覧には、事前に連絡が必要であり、目的をはっきりすれば許可されるとのことであった。そのほか、衆議院選挙人名簿や選挙公報・衆議院議員当選証書など選挙関連史料、戦後の自治体警察に関する史料がある。

戦後の自治体警察に関しては、まだ本格的な研究がないはずなので、今回見た一連の史料は、戦後の警察制度の変遷を研究する際には役立つだろう。また、自治体警察の財源を

めぐる県と市町村との軋轢なども研究対象としては面白いのではないだろうか。

文書の閲覧には、遺族の許可が必要であり、公認会計士として堀切家と関係がある安齋勇雄氏が、仲介や文書の管理をしている。安齋氏は堀切文書以外にも歴史資料に関係しており有力な郷土史家のような。

堀切文書で閲覧した史料の一覧は以下の通り。

- 3371 自治体警察設置運用要領 福島県 冊子 昭和 22・12
- 3372 飯坂湯野町警察組合公安委員選任書
- 3373 自治体警察組合同約改定議案 昭和 23・1・15
- 3374 自治体警察組合同約改定議案 昭和 23・1・15
- 3375 福島県報第 2206 号 警察署設置場所
- 3376 GHQG2 民間情報部公安課 昭和 23 年 2 月 17 日 AP0500「覚書 警察法について」
- 3385 市町村公安会議に付通知 会議開催通知
- 3386 自治体警察庁舎建設事業に付通知 庁舎建設費の配分を巡って
- 3387 公安関係会議資料 警察費関係のデータあり
- 3388 自治体警察庁舎施設費建設事業に付通知
- 3389 自治体警察査察に付通知 GHQ の査察、警察の将来像について
- 3391 自治体警察吏員の現任教養に付通知
- 3392 公安委員会連絡協議会会議書類 警察関係予算データ、東北 6 県警察連絡会議
- 3393 公安委員連絡協議会開催状況報告
- 3394 現任教養実施に付通知
- 3395 現任教養実施に関する協力依頼状
- 3396 警察制度改正参考資料
- 3397 事務分掌 飯坂・湯野町警察署
- 3398 警察法改正問題について 福岡県警察が自治体警察の廃止に反対
- 3399 警察法改正について 北海道・大阪警察が自治体警察の廃止に反対
- 3436 政友会福島支部会員名簿 昭和期 会員名簿かは不明 森格、浜田国松、警察署長、東武等の名前もあり
- 3459 警察制度改正研究資料 『警察研究』に掲載
- 3581 堀切善兵衛『英国経済学者の眼に映じたる共産主義』第 6 号（おそらく『政友』昭和 3 年 6 号に掲載されたもの）
- 3598 昭和 11 年 2 月 20 日衆議院総選挙 福島県地域別一覧
- 3623 研究会選挙内規 昭和 18 年 4 月
- 3655 貴族院事務調査部「イギリスの貴族院について」昭和 21 年 2 月 『貴族院（い）報』付録
- 3656 「憲法改正草案要綱」 『貴族院（い）報』付録
- 3658 「憲法改正及貴族院改革に就て」昭和 21 年 3 月 『貴族院（い）報』付録

- 3668 世界経済状況に付き書状 堀切善兵衛宛北村孝次郎書簡 英国経済はナチスのようになり没落、後はアメリカか、ロシアか。アメリカ経済は恐慌が心配、2年内に起こるのではないか。
- 3671 貴族院にて憲法改正案質疑開始に付書状 堀切善兵衛宛板倉卓造書簡
貴兄追放遺憾。このたび議会で初めて憲法改正について演説する。
- 3967 福島政友会支部宛堀切善兵衛書簡 1月27日 党費残額振り込み猶予してほしい、もし猶予なければ支部より独立の行動もやむなし。
- 4025 10月17日 堀切善兵衛宛犬養毅書簡 党の政務調査会(岡崎邦輔会長)に討議を求める必要あり、これについて貴兄に財政経済について意見聞きたい。
- 4033 旧安部井派懇親会開催通知 対選挙のため、旧安部井派懇親会開催したい。いずれも政友会の中堅になっている。伊藤武寿(県会)、国分久・小浜、直江多喜蔵・小浜、木口庄太郎・川崎、根本清左衛門・小浜等で同派はいまや全く政友会派なり。同封書簡 北東宛根本清左衛門書簡 11月10日
- 4070 堀切善兵衛「国体に則る選挙制度」昭和14 税金、兵役、学歴、戸主、官吏等で一人の票数を7票まで与える
- 4076 衆議院議員選挙得票調 町村別、堀切・菅野・栗山・林 昭和期か?
(この日は閲覧許可が降りなかった資料)
- 3611 急がば回れ 堀切善兵衛の昭和15年外交交渉に関する手記
- 3573 母の仁宛書簡 若槻礼二郎取り調べについて
- 3970 堀切善兵衛宛吉田茂書簡 ただし目録に図版あり
- 3980 堀切善兵衛宛重光葵書簡 ただし目録に図版あり
- 3925 犬養毅書状 ただし目録に図版あり
- 3660 政府の憲法改正草案要綱に対する批判 昭和21年4月 『貴族院(い)報』

収集目録

『堀切家寄託資料目録 - 陸奥国信夫郡の豪商の近世から近代 - 』(『福島県立博物館調査報告集第35集』、福島県立博物館、1999年)

調査機関 山形大学 附属図書館・附属博物館(山形県小白川町1-4-12)

調査実施日 平成12年3月2日

調査史料

山形大学は、旧山形高校と山形師範が統合されてできたのだが、旧山形師範収集の文書・物は附属博物館に継承され、山形高等学校の資料は図書館に継承された。近世文書を中心に県内随一の収集量があり、統一的な管理を整備しつつあるが、博物館と図書館に分かれて所蔵されている。現在まで博物館で発行している文書目録21冊を寄贈された(下記『古文書近世史料目録』)。さらに、現在ある仮目録類(図書館所蔵のものも含む)によれば、山形大学には整理済み資料2万点、未整理分2万点が所蔵されている。史料は近世文書が

中心であり、かつ近世の分類法に従って整理されている。そのため、たとえば政治・政党関係などは全くでこず、書簡は私信として家族関係の中に一緒に分類されている。この点は近代史研究者が利用するには留意する必要があるだろう。だが、全般的には、近代史料を無視せず、丁寧な整理がなされている。

政治関係では、鮎洗文書にある行政文書、村方文書及び渡辺喜助文書といった史料が目をつけた。村方文書には、明治後期から大正期にかけての「衆議院選挙ニ付手控」が候補者の地域別得票数などが記されており興味深い。書簡類は、封筒が欠けており年代推定には苦労すると思うが、必ずや何らかの知見が得られるような印象をもった。

収集目録

『古文書近世史料目録』（山形大学附属郷土博物館）

- | | |
|---------------------|---|
| 第 1 号 (1969 年 2 月) | 「大石田町 渡辺喜助家文書」 |
| 第 2 号 (1970 年 2 月) | 「寒河江市慈恩寺 最上院文書」 |
| 第 3 号 (1971 年 2 月) | 「東村山郡山辺町大蔵 稲村家文書」 |
| 第 4 号 (1972 年 2 月) | 「天童市久野本 青柳清兵衛家文書」
「 同 久野本村文書」 |
| 第 5 号 (1972 年 11 月) | 「山形市鮎洗文書」 |
| 第 6 号 (1973 年 12 月) | 「天童市荒谷 村形家文書」 |
| 第 7 号 (1974 年 12 月) | 「山形市 三浦文庫文書 (一)」 |
| 第 8 号 (1976 年 3 月) | 「山形市 三浦文庫文書 (二)」 |
| 第 9 号 (1977 年 3 月) | 「山形市 五十嵐家文書」 |
| 第 10 号 (1978 年 2 月) | 「山形市 三浦文庫文書 (三)」 |
| 第 11 号 (1978 年 7 月) | 「村山市楯岡 最上徳内史料」 |
| 第 12 号 (1990 年 3 月) | 「山形市長谷堂 須貝長吉家文書」
「西川町 吉川 笹島長左衛門家文書」 |
| 第 13 号 (1991 年 3 月) | 「山形市 三浦文庫文書 (四)」 |
| 第 14 号 (1992 年 3 月) | 「長井政太郎収集文書」
「住吉英作収集文書」 |
| 第 15 号 (1993 年 3 月) | 「大江町 月布 大泉次郎衛門家文書」
「高畠町 入生田 栗田富蔵家文書」
「山辺町 山辺 垂石権吉家文書」 |
| 第 16 号 (1994 年 3 月) | 「東根市松沢 阿部宇右衛門家文書 (二)」
「県内各地域文書」 |
| 第 17 号 (1995 年 3 月) | 「山形市陣陽 斎藤武一郎家文書」
「山辺町大蔵 稲村七郎左衛門家文書 (二)」
「南陽市鍋田 戸田新兵衛文書」
「米沢市上・下新田 新田村文書」 |

- 第 18 号 (1996 年 3 月) 「米沢市 安田家文書」
第 19 号 (1997 年 3 月) 「山形市三日町 小嶋源兵衛家文書 (一)」
第 20 号 (1998 年 3 月) 「阿部宇右衛門家文書 (一)」
「深沢村文書」
第 21 号 (1999 年 3 月) 「県内各地域文書」

「山形大学附属図書館蔵 古文書目録」 (山形大学附属図書館、1982 年 3 月、1998 年 3 月追記)

調査機関 山形県立図書館 (山形県山形市緑町 1 - 2 - 36)

調査実施日 平成 12 年 3 月 2 日

調査史料

「県人文庫」

『大川周明旧蔵書目録』

「結城豊太郎宛書簡」の一部

「県人文庫」に関する所蔵状況は以下のようなものであった。

- ・池田成彬文書はすべて東京大学法学部の近代法政史料センターに入っていること。
- ・結城豊太郎関係文書は、当初県立図書館で整理し、書籍と書類は終了し冊子にしたこと (書類の部分は複写する)。ただし、書簡は大量であったため、未整理のまま結城記念館が引き上げたこと。県立図書館で所蔵していた結城記念館にある結城宛書簡の一部を筆写した。以下の通り。

昭和 11 年 10 月 6 日 結城宛近衛文麿書簡

3 月 6 日 結城宛鳩山一郎書簡

6 月 12 日 結城宛小磯国昭書簡 (結城と小磯は山形で同窓らしい)

- ・平田東助は伊東忠太の叔父で、この図書館にある平田の文書は伊東宛であること。
- ・安達峰一郎に関してはは東京の安達峰一郎記念館からのものはないとのこと。

すべての史料目録が掲載されている『県人文庫目録』を寄贈される。

また、酒田市立図書館の光丘文庫所蔵の『大川周明旧蔵書目録』 (平成 6 年、同図書館) を見せてもらう。刊本中心だが、雑誌・パンフレット類もあるようだ。

- ・『大川周明旧蔵書目録』で目立ったものは以下の通り。

『大陸』雑誌、大連

『金鷄学院特刊』叢書

『金鷄学院文藪』叢書

天野辰夫『国体皇道』

東亜連盟同志会『国民組織要綱案』 (昭和 18 年)

企画院研究会『国防国家の綱領』 (昭和 18 年)

東亜研究所『東亜日誌』 (昭和 16-18 年)

収集目録

『県人文庫目録 - 常設展示 22人 - 』（山形県立図書館、1997年）

：明治以降に活躍した山形県出身者22人に関する資料（図書・雑誌、日記・書簡、その他）で、1996年12月31日現在、山形県立図書館が所蔵する資料を収録したもの。

22人の内訳は以下の通り。

- 安達峰一郎（外交官・国際法学者・国際司法裁判所長、写真・関係文献など）
阿部 次郎（哲学者・美学者・評論家、著作・来信・写真など）
池田 成彬（銀行家・三井財閥指導者、日記・書簡・関係文献など）
伊東 忠太（建築史家・建築家、著作・来信・写真など）
大熊 信行（経済学者・評論家・歌人、著作・原稿・来信など）
小倉金之助（数学者・数学教育者、著作・書簡・関係文献など）
折下 吉延（造園家、著作・書簡・辞令証書類など）
日下部四郎太（物理学者、著作・関係文献など）
小松 均（日本画家、作品・著作・関係文献など）
斎藤 茂吉（歌人・医師、著作・原稿・関係文献など）
相良 守峯（ドイツ文学者、著作・原稿・関係文献など）
新海竹太郎（彫刻家、著作・辞令褒賞類・関係文献など）
高橋 里美（哲学者、著作・原稿・関係文献など）
高山 樗牛（文学者・評論家、著作・写真・関係文献など）
新関 良三（演劇学者・ドイツ文学者、著作・原稿・書簡・来信など）
浜田 広介（童話作家、著作・写真・関係文献など）
平田 東助（政治家・産業組合運動の指導者、著作・書簡・関係文献など）
平塚 英吉（農芸学者、著作・原稿・来信・ノートなど）
堀米 庸三（西洋史学者、著作・原稿・関係文献など）
本間 久雄（文芸評論家・英文学者・日本近代文学研究家、著作・原稿・関係文献など）
結城豊太郎（銀行家・政治家、来信・関係文献など）
我妻 栄（法律学者、著作・原稿・関係文献など）

調査機関 南陽市立結城豊太郎記念館（山形県南陽市赤湯362）

調査実施日 平成12年3月3日（季武）

調査史料 「結城豊太郎関係文書」

館長の岩間氏より元館長の工藤宗一郎氏を紹介され、所蔵史料に関する情報を聞くことができた。

・主立った書簡は東大法学部法政史料センターでマイクロ化し所蔵している。これに関しては目録化されている（近代立法過程研究会収集文書 no.20「結城豊太郎関係文書目録」）。また、横浜市史編纂室もマイクロをとったらしい。目録に記載されたほかの人物の書簡が、

同量以上にあり、調査の必要が出てくるかもしれない。

- ・結城豊太郎夫人の実家（五典森？）である石岡家に約 430 通の結城書簡がある。
- ・以上のうち、一部は工藤氏自身が原稿用紙に起こしているとのことだが、中断している。

調査機関 上杉博物館（山形県米沢市丸の内一丁目 4-13 松岬公園内）

調査実施日 平成 12 年 3 月 3 日（小宮）

調査史料

「杉原謙関係文書」

「上杉駿河守家関係文書」

：博物館が所蔵する「杉原謙関係文書」と「上杉駿河守家関係文書」について説明を受けた。現在目録作成中で、目録完成までは非公開である。杉原家は家老クラスの家柄であること、上杉駿河守家は分家で知行高 1 万石、明治になってから子爵をもらった家柄であるとのことであった。

調査機関 市立米沢図書館（山形県米沢市金池 3-1-14）

調査実施日 平成 12 年 3 月 3 日（小宮）

調査史料

担当者から、以下のような話を聞く。

- ・上杉文書は、市立図書館から上杉博物館に移管された。
- ・資（史）料の閲覧に来るのは、地元以外の人が大半（どうも研究者のようだ）。地元には、近代史の研究者が郷土史家も含めて、ほとんどいない。
- ・市立図書館が所蔵する原史料を用いた戊辰戦争研究が現れて欲しい。

収集目録

『林泉文庫目録』（市立米沢図書館、1964 年第一刷、1983 年改訂版）：郷土史家伊佐早謙氏の旧蔵書 1,300 余冊。近世資料が中心だが、皇室巡幸や町村制に関する史料を含む。

『郷土関係 寄贈寄託 文書目録』（市立米沢図書館、1983 年）

⑥ **調査者** 武田 知己（東京都立大学法学部助手）

矢野 信幸（中央大学文学部非常勤講師）

出張期間 平成 12 年 3 月 16 日～3 月 19 日

調査目的

今回の出張調査は、岩手県を中心として東北地方における日本近代関係史料に関する情報を収集することを目的とした。当初の予定では、山形県新庄市の市立新庄図書館でも、小磯国昭（元首相・陸軍大将）に関する史料調査を行なう予定であったが、降雪による天候不順もあって予定の変更を余儀なくされ、盛岡市で集中的な調査を行なった。調査を実施したのは、岩手県立図書館と盛岡市先人記念館の二つの史料保存機関である。

調査機関 岩手県立図書館（岩手県盛岡市内丸 1-50）

岩手県立図書館は、盛岡藩政成立史の関係史料をはじめ日本中世・近世の史料を所蔵し、まとまった地方文書として一倉家文書（上小山田村肝煎・地主文書）、平沢文書（平沢村肝煎文書）を保存していることで知られている。今回の調査では、岩手県立図書館所蔵の近代史料を調査するとともに、同館で岩手県関係の近代史料情報を収集することに眼目をおいた。

調査史料

「八角文庫」：八角家は、代々南部藩士を務めた家柄である。海軍中將で昭和戦前期に衆議院議員であった八角三郎は、その末裔にあたる。八角三郎は、盛岡中学を卒業、海軍兵学校を経て海軍大学校を卒業し、支那公使館付武官から軍令部入りした。少将任官後、水雷学校長などに服務した後、昭和6年、大湊要港司令官で退役した。退役後、昭和7年に政界進出を果し、衆議院議員を4期務めた。海軍大将で海相・首相を歴任した米内光政とは、盛岡中学、海軍兵学校を通じての同級であったことは有名である。

今回調査した「八角文庫」は、昭和40年代に八角三郎の御遺族から岩手県立図書館に寄贈された資料で、現在では一般書と同様に配架されている。内容は、「文庫」という名の示すように、千数百冊からなる書籍が中心で、当初期待した「八角三郎関係文書」といえる公私にわたる第一次史料を確認することはできなかった。

「藤卷家文書」：今回の調査で、『藤卷家文書目録』（平成7年9月、私家版）を入手することができた。「藤卷家文書」は、貞享3年（1696）から300年にわたり藤卷家（当主・斎藤悦郎氏）に伝来する、近世・近代にわたる家文書である。その目録は、私家版のため広範囲に配布されているとは思えない。この目録によれば、「藤卷家文書」を整理されたのは元北上市立図書館長・滝沢義雄氏である。日本近代関係史料の比率は小さいものだが、特に、八角三郎・志賀健次郎・椎名悦三郎の戦前・戦後の関係史料が残されていた。家文書の一般的な性質上、日記や中央での様子を窺い知れる史料ではないものと予想されるが、椎名を除きこれらの人物について史料の存在自体知られておらず、貴重なものだと言える。

職員によれば、「藤卷家文書」については、同館では文書目録のみを所蔵し、原史料は御遺族の手許で所蔵・保管しているとのことで、残念ながら今回の調査では閲覧することはできなかった。

「志賀健次郎関係資料」：上記「藤卷家文書」について言及した際にふれた志賀健次郎については、生い立ちから池田内閣時代までを回想した対談が、同館所蔵の『対談集・岩手の昭和史3』（岩手放送編、熊谷印刷出版部、昭和59年）に掲載されていたため、当該箇所をコピーにて入手した。志賀健次郎は岩手県東磐井郡大東町出身で、改進黨代議士会長、第三次池田内閣の防衛庁長官をつとめた人物である。

収集目録（資料）

『藤卷家文書目録』（平成7年9月、複写）

四川老人「八角文庫」（『いわて』No.45 掲載〔昭和 41 年 1 月〕、複写）
岩手放送編『対談集・岩手の昭和史 3』（熊谷印刷出版部、昭和 59 年、複写）

調査機関 盛岡市先人記念館（岩手県盛岡市本宮字蛇屋敷 2 - 2）

盛岡市先人記念館は、明治期以降に活躍した盛岡市に縁のある 125 人の人物の遺品や文書史料を保存している。展示室は、盛岡を代表する三人の先人、すなわち新渡戸稲造・米内光政・金田一京助の三つの記念室と総合展示室から構成されている。その展示に供されている史料をはじめ、それぞれの展示室には、いずれも盛岡ゆかりの先人の足跡を偲ぶための努力と工夫を感じさせられるものがあった。今回は、同館所蔵の先人史料のうち、とくに米内光政と郷古潔の関係史料を集中的に閲覧調査した。

調査史料

「米内光政手帳」：米内光政は、明治 13 年（1890）盛岡生まれの軍人・政治家である。海軍兵学校、海軍大学校を卒業、昭和 11 年には連合艦隊司令長官に就任、その後三内閣で海軍大臣を務め、昭和 15 年には首相として国務を担当した。昭和 19 年には現役に復帰、海相として小磯国昭と連立内閣を組織し、鈴木終戦内閣でも引き続き海相の任にあった。

今回は、本館所蔵になる米内光政の手帳を閲覧した。閲覧したところ、それ程の内容記述はなかったが、唯一の成果は、再建聯盟に参加する大分出身の政治家・綾部健太郎が米内の手帳に頻繁に出てくることであった。

「郷古潔宛書簡」：郷古潔は、明治 15 年（1882）に水沢市に生まれ、東京帝国大学卒業後、三菱合資会社に入社し、昭和 16 年には三菱重工業の社長に就任した人物である。戦時中、東条内閣で内閣顧問を務め、戦力増強政策の一翼をになった。このため戦後、戦犯容疑者として巣鴨プリズンに拘置され公職追放の身となったが、出所・公職追放解除の後、財界に復帰して日本工業クラブ専務理事を務めるなど、戦後日本の経済復興に尽力した。

このような経歴からうかがわれるように、郷古の交友関係は幅がひろく、軍人・政治家・官僚・文化人など多岐にわたるものであったと考えられる。今回、盛岡市先人記念館で閲覧させていただいた郷古への来簡は、そのことを裏付ける実に貴重な史料であった。なかでも戦時期に内閣顧問を勤めた郷古に、藤原銀次郎・豊田貞次郎等多くの閣僚が、時局の困難さを率直に訴えているのが印象的であった。戦後については、芦田均と吉田茂からの書簡があった。芦田書簡は再軍備運動に関するものであり、吉田書簡は礼状の類であった。

なお、盛岡市先人記念館の御厚意で、同館閲覧室に配架されていた資料のうち、郷古関係の資料を複写させていただくことができた。

収集資料

『郷古潔の思い出』（昭和 41 年 4 月、非売品、複写）

『生誕百周年記念 及川古四郎』（及川古四郎を偲ぶ会、昭和 58 年 12 月、複写）

『盛岡市先人記念館 案内図録』（盛岡市先人記念館、平成 5 年 11 月）

『盛岡の先人たち』（盛岡市先人記念館、昭和 63 年 8 月）

成果と課題

郷古への来簡は、然るべき手続きを取って、史料紹介などの手段をつうじて公にする価値のあるものである。郷古関係の史料は、遺族からの承諾を得るなど、科研統括者とも協議しながら引き続き調査を続行する必要があると考えられる。

また、今回の調査では内容の確認ができなかった「藤巻家文書」や、盛岡市先人記念館が所蔵する他の先人関係史料も、日本近代史料情報として貴重であると考えられるため、逐次収集すべきであると考えられる。

⑦ 調査者 西川 誠 (川村学園女子大学文学部専任講師)

出張期間 平成12年3月16日～3月19日

調査機関 大分県立公文書館
大分県立先哲史料館
大分県立図書館

1. 調査目的

この史料所在調査は、矢野竜溪資料集を刊行するなど近代史史料も集めつつあると考えられる大分県先哲史料館と、明治期の公文書をも所蔵している大分県公文書館の所蔵史料を確認するとともに、大分県立図書館の所蔵状況を調査し、県下の近代史史料について情報を得ることを目的として行なった。なお出張者が当該県を選択したのは、出張者が隣県宮崎県の県史編纂に従事し宮崎県立図書館の所蔵史料に知識があるため、大分県の調査にもその知見が有利になる点もあるのではないかと考えたからである。

2. 先哲史料館・図書館・公文書館の関係

3館は同一の建物の中にあり、いずれの館でも同様のことを聴いたので、まず所蔵史料についての3館の関係について、概括する。

そもそも県の文書館の機能を果たしていたのは、大分県立図書館であった。平成7年に、郷土の偉人を顕彰する先哲史料館と公文書館が設置されたが、その際に史料は次のように引き継がれた。

まず図書館の文書類は原則的に全て先哲史料館と公文書館に引き継がれた。したがって、図書館には、個別に購入し図書扱いとなったもののみが残ることとなった。

先哲史料館と公文書館は、廃藩置県を境として所蔵史料を分担している。

公文書館は、基本的には県の公文書と行政資料と若干の市町村文書を所蔵し、近代と行政文書を収集対象とするが、私文書を積極的に集めているわけではない。

先哲史料館は、所蔵史料の中心は近世以前である。民間文書は先哲史料館の収集対象であるが、近代に関しては、所蔵史料は少ない。

以下、館別に所蔵史料について述べよう。

3. 大分県立公文書館

(1) 調査実施日 3月16日・17日

(2) 面会者 主査 足立剛

要覧・年報類を受領した。

(3) 所蔵史料の概要

県の公文書が 4200 冊余、県が作成したあるいは県に寄贈された国・都道府県・県下市町村の行政資料（報告書や統計書）、その他を所蔵している。

(ア) 公文書

目録には、①「公文書簿冊目録（年度別） 明治元年～昭和 20 年」・②「公文書簿冊目録 永年（年度別） 明治 23 年～昭和 43 年」・③「公文書簿冊目録有期限（年度別）明治元年～昭和 47 年 年不詳大分県奨学会」があった。ほかに図書館時代の目録があった。①と②③は重複し、閲覧の便ために 2 種類あるのであろう。①を複製収集した。

所蔵冊数は、戦前は 2400 冊余、その中で明治期が 5～600 冊、大正期が 5～600 冊である。所蔵の経緯は、戦前期の 9 割は図書館を経由している。これらの文書は、教育関係や寺社関係が中心で、図書館や県史関係者が個別に有期限文書を県より移管して収集保存に当たったものである。残り 1 割と戦後期は、公文書公開によって、県の書庫に保存されていた文書を移管して公開している。今後も継続して知事部局の公文書は移管公開されることとなっている。ただし教育委員会等委員会関係の移管は確立していない。

目録は、現在停止しているが大正期まではインターネットで簿冊名を公開している。今後もその予定である。件名目録は明治期を作成中であるが年間 1 万 5000 件程度であり、公開の目途は立っていない。

保存公開状況は良好である。古い簿冊はかなりの部分がマイクロ化されているらしく、マイクロからの複写が可能であった。痛みの激しいものは補修されていた。複製本も作成中とのことであった。

(イ) 行政資料

目録には、「行政資料目録 分類別」・「行政資料目録 発行機関別」・「行政資料目録 都道府県別」・「行政資料目録 県内市町村・国の機関別」・「大分県報目録」があった。県は行政資料を県政情報室で公開しており、その古いものが順次移管されて公開されている。

(ウ) その他

目録には、①「下北津留村文書」・②「熊毛村文書目録」(1)～(4)・③「宇目町文書目録」・④「故松木武弁護士寄贈図書目録」・⑤「地域資料目録」があった。市町村文書が 7500 点余寄託されているとのことで、①～③、⑤等の文書をさすと考えられる（「公文書館だより」第 1 号参照）。いずれも近現代の町村役場文書である。①の文書は県立図書館からの移管であり、①は図書館作成の所蔵目録の関係箇所を綴じたものである。すなわち先哲史料館で収集した『大分県立図書館蔵書目録 第 2 巻』の中に含まれている。④は法律関係の図書である。⑤は、公文書でなく、近代関係の史料で、寄贈・購入にかかるものである。説明ではパンフレット・地図などが多いとのことであったが、一見した限り

では刊本が多い。ほかに維新期の岡藩の文書、日田県の文書、明治期農会文書（「栽培一件」、「公文書館だより」第4号参照）や、三苦家資料（福岡を本家とする商家、昭和期の椎茸栽培に関する史料）、狭間工藤氏文書（明治期戸長）といった私文書も含まれている。目録を複製収集した。

4. 大分県立先哲史料館

(1) 調査日 3月17日・18日

(2) 面会者 主任研究員 安田晃子

案内・年報類を受領した。年報は、「史料館研究紀要」の抜刷である。

(3) 所蔵史料の概要

古文書や記録類、先哲に関する遺品や史料を収集している。基本的には近世以前の文書である。出張者の判断では、目録と対応させて次のように分類して把握すれば良いのではなどと考える。

(ア) 県立図書館から移管の所蔵文書：『大分県立図書館蔵書目録 第2巻』

(イ) 寄託史料：「寄託史料目録」

(ウ) 図書雑誌：カードボックスあり

(エ) 先哲関係史料：要覧参照

(オ) 県史編纂収集史料

以下それぞれについて述べる。

(ア) 県立図書館から移管の所蔵文書

閲覧に供している原史料の中心であろう。平成8年度の年報参照。史料目録は、県立図書館時代に作成された『大分県立図書館蔵書目録 第2巻』の中の目録が使われていた。全冊複製して収集したが、そのうち大友文書から算所歌舞伎資料まで公文書館に移管の下北津留文書を除く）が先哲史料館所蔵文書である。大名家文書・藩政文書（府内藩）・藩士文書・村文書・名主文書等からなる。

近代に関係する文書について簡単に述べる。府内藩記録には廃県までの藩政史料がある。津久井家文書は府内藩士家の文書で、幕末の風説書・明治期士族関係がかなりある。有永家文書には、国東郡の郡関係史料など近代史料が多い。田北家文書は、量にして半分が近代であり、区戸長関係、酒造業経営、金融関係の史料があった。マイクロ化されたものが多く、紙焼きも積極的に行なっている。マイクロ・紙焼き史料とも原則的には複写可能。

(イ) 寄託史料

平成8年度年報参照。これも県立図書館寄託文書を移管した史料が中心。その後収集された史料も含まれており、その中には所蔵にかかるものもあるようである。「寄託史料目録」というタイトルの目録があり、複製して収集した。各文書には近代まで継続するものがある。可児家文書には、可児栄生が建築関係であったことから、帝国議会議事堂建設中の写真がある。岡本家文書は、府内藩家老家文書で、明治初期までの文書があった。マイ

クロ・紙焼きを積極的に行なっているようである。

(ウ) 図書雑誌 (省略)

(エ) 先哲関係史料

一点ずつ購入して収集している。要覧に、かなり詳しい概要がある。先哲叢書編纂に合わせても収集している。福沢諭吉書翰・長三州書翰・重光葵書翰・山本達雄書翰・一万田尚登書翰が目についた。なお福沢諭吉文書のマイクロも所蔵し閲覧に供している。

(オ) 県史編さん班収集史料

目録はない。個別に相談であろう。

(4) その他の事業

先哲史料館では、展示・資料集の編纂も行なっており、資料集は先哲叢書として刊行中である。また先哲史料館では、県内の史料所在調査を行なっているが、大分県史編纂の際の史料の追跡が中心であり、対象も前近代に重きを置いているとのことであった。近代に関する成果を尋ねたが、区戸長文書や神官家文書に近代まで継続するものがあるという把握しかしていないとのことで、そのリスト(手書き)を受領した。ほかに臼杵図書館が近代に続く近世文書を所蔵しているらしいとのことである。

5. 大分県立図書館

(1) 調査日 3月17日～19日

(2) 面会者 奉仕第二課主幹兼郷土史料係長 吉良洋一

案内などは、公文書館で受領した3館共通のものを参照のこと。

(3) 所蔵史料の概要

原文書は、移管に洩れたものしかないとのことであった。『大分県立図書館蔵書目録 第1巻』を見ると、83頁などに手書本がある。そこで歴史・個人伝記の箇所をコピーした。

(4) その他

吉良氏に県下の史料状況をうかがったが、特に近代に限った政財界人の私文書の存在は知らない、県下市町村図書館に存在するかもしれないがそれぞれに問い合わせてもらわないとわからないとのことであった。閲覧室の目録類の概要を教えてもらった上で調査した。興味深いものについてコピーしたが、著作権上、部分の収集である。山溪偉人館の所蔵品目録については、吉良氏に公民館に問い合わせをいただき、公民館の許可が出たので(口頭による)全部複写した。

収集目録は以下の通り。

『大分大学経済研究所所蔵 戦前期分類目録 I 旧植民地・海外諸国編』:約3万8000点、大分大学経済研究所側の目録が不備であったことから、アジア経済研究所の『総合目録』に記載されていない史料が多数あるという。解説部分のみ複写した。

『大分市歴史資料館年報』(88年～96年):各年「資料収集」の箇所を複写した。大分市史編さん事業収集文書が移管されており、毛利空桑関係文書753点が含まれている。ほか

に大分県の行政・経済関係史料を購入している。

『山溪偉人館収蔵品目録』：重光葵の記念館。公民館の人のお話では、遺品の一部は遺族に返却しているとのことである。全て複写した。

『竹田市立図書館・竹田市立歴史資料館所蔵 古資料目録』：近代関係として、岡藩の「1藩主家」～「8小河一敏関係」の部分と明治期に県議をつとめた児玉司馬蔵の文書を含む「児玉家寄贈文書」の部分複写した。

6、収集目録一覧

「公文書簿冊目録（年度別） 明治元年～昭和20年」（大分県立公文書館）

「地域資料目録」（大分県立公文書館）

『大分県立図書館蔵書目録 第1巻、第2巻 郷土資料』（大分県立大分図書館）

「寄託史料目録」（大分県立先哲史料館）：池見家文書、岩尾家文書、岡本家文書、可児家文書、城内家文書、杉山家文書、中道協議会文書、平林家文書、松原文庫

『大分大学経済研究所所蔵 戦前期分類目録 I 旧植民地・海外諸国編』

『大分市歴史資料館年報』（1988年～1996年）

『山溪偉人館収蔵品目録』

『竹田市立図書館・竹田市立歴史資料館所蔵 古資料目録』

⑧調査者 小池 聖一（広島大学総合科学部助教授）

出張期間 平成12年3月27日～3月31日

- 調査機関
- 1、海南文庫（香川県大川郡長尾町名1441）
 - 2、徳島県博物館（徳島県徳島市八方町向寺山 文化の森総合公園内）
 - 3、徳島県立文書館（同上）
 - 4、大平正芳記念館（香川県観音寺市阪本町）

1、海南文庫

本文庫は、元憲政会・民政党代議士小西和（幼名和太郎、号海南、画号松亭）氏の旧蔵書籍および日記等を、ご子息小西欣弥氏が管理されている。

小西海南は、岡山中学から札幌農学校へすすみ、明治27年卒業すると香川県長尾町の1.5町歩の田畑・屋敷等を全て売り払い、移民団を組織して、北海道石狩にて開墾に従事し、小西農場を創設。それから8年後に上京、新橋の夜店で自筆の絵画を売るなどした時期もあったが、東京朝日新聞社に入社。日露戦争では、第一軍の従軍記者として、記事と自慢の絵をもって戦況を国内に知らせた。そして、明治45年、郷里香川県から衆議院に立候補して当選。以後、9回立候補し、7期衆議院議員を努めている。その間、ベルリン万国議院同盟会議・パリ万国議院商事会議等に出張。世界一周している。会派は、民政党であったが、派閥に属さず犬養毅・若槻礼次郎・紫安新太郎等と親交を結び、昭和22年、郷里で没した。

調査史料 「小西海南氏旧蔵史料」

この小西海南氏旧蔵史料は、以前、宇佐神社に奉納されていたが、現在、ご子息の小西欣弥氏がご自宅の一室に保管されている。全体の規模は、本箱二箱分であるが、下記のを所蔵している。

- (1) 肖像写真・勲記
- (2) 自筆の條幅・扁額等
- (3) 日記・日誌
- (4) はがき綴
- (5) 草稿
- (6) スクラップブック
- (7) 写真帳
- (8) 書簡
- (9) 書籍・漢籍

である。

このうち、(3) 日記・日誌には、松山遊学の日記帳と金銀出入簿（明治11年、15才、小西欣弥氏書き起しのものを入手）、札幌農学校時代の旅行日誌、北海道の小作農業論などである。スクラップブックは、海南自らが執筆した原稿およびそれに付した絵を自らまとめたものであり、「従軍録」（明治37・38年）等がある。(7) 写真帳は、世界一周の際、海南自らが撮影したものである。(9) には、衆議院議事摘要など国会関係が含まれている。(8) の書簡については、時間がなく、目を通しただけであるが、村山龍平、犬養毅、若槻礼次郎、紫安新太郎等からの来翰が約20通含まれている。基本的に近況報告が中心のものである。

なお、小西欣弥氏は戦前・戦中期、マキ自動車株式会社および横浜ゴム株式会社に勤務、後者に勤務中、海軍顧問として主に艦政本部を相手に仕事をしたとのことである。また、戦後30年間、長尾町長であり、その後、大平正芳氏の推薦で株式会社丸井（青井初代社長のもと）の顧問となっている。敗戦後、成田知己元社会党委員長が、当初、香川県から立候補する際、小西海南のもとを訪れ、自由党での立候補斡旋を依頼したものの果たせず、小西海南の選挙名簿を利用して無所属で立候補して落選したとのこと等を含め、多くのことを聴取することができた。

収集目録

「海南文庫目録」

寄贈資料

町田三郎「明治の青春 - 小西和の軌跡 -」（『純真紀要』No.40、1999年）

小西歆誉（欣弥）著「切支丹大名 小西行長を憶う」（ワープロ）

「海南 小西和 作品集」抜粋（ワープロ）

「海南詩稿」抜粋（ワープロ）

2、徳島県立博物館

主任学芸員長谷川賢二氏（歴史担当）により、下記の説明をうけた。

現在、徳島県立博物館では、移転前に寄贈をうけた文書の整理を行なっている。徳島県立博物館および図書館、文書館では独自のコンピューターシステムを運用しており、パーソナルコンピューターのフォーマットの規定項目に入力すればSEが自動的に整理して登録し、公開まで進めることができる。このため、基本的に順次、整理済次第、公開しているとのことである。

調査史料

(1) 飯沼家文書（目録をコピーにて入手済）

飯沼家は、徳島藩物頭格の家であり、昭和43年に資料が一括寄贈されている。七代幸太郎は、ペリー来航時に警固で出張し、八代の庸太郎とともに、安政五年日米修好通商条約警固でも出張している。八代の庸太郎は、第一次長州征伐に出陣している。このため、本飯沼家文書には、幕末・明治維新関係の文書が多く所蔵されている。

(2) 手塚家資料文書（目録入手）

手塚家資料は、阿波の藍商史料であり、明治前期にその流通機構が飛躍的に発達したことが理解できる史料群である。

(3) 歴史資料（目録入手）

この史料には、日露戦争等従軍資料、大阪海軍航空隊和田島基地施設部資料等も含まれている。

(4) 蜂須賀家文書の写（幕末・明治維新时期）

蜂須賀家の文書は、現在、文部省国立史料館に一部収蔵されている。しかし、蜂須賀家文書自体は、基本的に散逸し、文部省国立史料館に購入されたものも一部である。そのなかで、本文書群は、国立史料館が所蔵していないもので、写ではあるが散逸した蜂須賀家文書の一部を構成するものである。本史料群は、西村古美術店より購入したものである。実際、「淡路国兵庫編入一件写」（明治4年）と、「長州征伐一件写」（慶応2年）を閲覧した。ともに、蜂須賀家文書の写であるが、前者は、「澄水会」と柱にある茶色縦罫紙であり、後者は、「蜂須賀」と柱にある水色縦罫紙である。どのような来歴で本文書群が成立したのか、判然としないが、写が二系統にわたって存在するものと考えられる。

(5) 半田寛氏旧蔵文書（鐸堂都郷角太郎関係文書）

半田寛氏は、小学校教諭で鐸堂都郷角太郎の事績を紹介した人物である。鐸堂都郷角太郎は、書家であり後年失明し、世界の平和共存を唱え遊説した「憂国」の人であったとされる。このなかで、下記のような書簡下書きも所蔵されていた。

○昭和14年3月9日付鐸堂都郷角太郎より北京中華民国臨時政府行政委員長王克敏宛書簡下書 内容は「悪字改善」につき賛同方礼状。

○昭和14年3月付鐸堂都郷角太郎より満州国國務総理張景恵宛書簡下書は礼状

以上の史料群を含め、平成 12 年 4 月 1 日よりインターネットで検索システム付きで公開の予定である (<http://www.comet.go.jp/bunmori/>) (なお、本ホームページは、博物館・図書館・文書館共通のもので、同ホームページより、各館の所蔵史料が検索できる)。現在、整理中および未整理の近代日本関係史料はないとのことであった。

なお、徳島県立博物館および図書館、文書館は、県教育委員会のもとにあり、文書館では県公文書の入手が困難となっているとのことである。また、博物館では、年購入予算が考古も含めた全体で減額傾向にあるとのことであり、徳島城博物館と文書館、博物館の歴史関係担当者間で連絡を取りあって、徳島県関係資料については、出来るだけ購入できるようにしているとのことであった。

収集目録

徳島県博物館編『飯沼家文書目録』（「徳島県博物館所蔵資料目録」第 15 号、昭和 61 年、コピー版）

徳島県博物館編『手塚家資料目録』（「徳島県博物館所蔵資料目録」第 17 号、昭和 62 年）

徳島県博物館編『飯沼家文書目録』（「徳島県博物館所蔵資料目録」第 18 号、昭和 63 年）

インターネット公開する歴史資料目録（後にメール・エクセルにて入手）

寄贈資料

徳島県博物館「都郷鐸堂の芸術展」（パンフレット、昭和 56 年）

3、徳島県立文書館

館長逢坂俊男氏、主査兼係長立石恵嗣氏および事務主査金原祐樹氏より下記の説明を受けた。主に立石氏より、館内を案内していただきながら、説明を受けた。現在、所蔵冊子目録を作成中で、6 月には刊行予定とのことである。

本文書館は、1989 年完成したもので、建物は旧県庁の外壁を利用している。内部設備は小さいながら燻蒸施設を持ち、その意味で完備されているものの、所蔵庫総面積は余り大きいものではない。このため、本格的な公文書館として永久保存資料を含めた公文書を完全に整理・保存・公開できるかは疑問である（現在、公文書についても公開しているが、情報公開法にもとづき、プライバシーに関連するものについては、袋がけして非公開としている。この作業だけでも膨大なものとなろう）。その意味で、本格的な文書館設置が必要となると思われる。現在、永久保存記録を含めて現用記録と非現用記録とのボーダーラインが明確でないこともあり、今後、本格的な公文書館の設置は、県庁と距離的に近いところに設置すべきであろう。その意味で、県庁から離れ、県教育委員会のもとにある本文書館は、公文書館としては、機能しにくいものと思われる。このため、本文書館は、将来的に、規模から文書館としてよりも、徳島県の史料館的な役割を担うこととなると思われる（同様のことは広島県文書館でも言うことができる。史料館と位置づけた場合、徳島県立文書館は、地方公文書館として利用率が極めて高い。それは、各種企画展等をふくめ積極的な生涯学習施設として運用している点で理解できた）。

調査史料

(1) 小松島市役所文書（寄託、約 2000 簿冊）

徳島県公文書が焼失しているため、町村史料も積極的に収集していることをしめしている。小松島市からの寄託文書であり、使用に際しては、小松島市の許可が必要とのことであった。

(2) 自助社関係文書（購入、11 点）

この文書は、古書店から購入したもので、徳島県自由民権関係文書である。

(3) 近代塩業関係文書（篠原家文書、鳴門塩業組合関係文書・260 点）

地方文書として篠原家文書と鳴門塩業組合関係文書の文書がある。後者については、目録を複写させていただいた。近代塩業史料としては、広島県文書館所蔵のものとあわせれば、瀬戸内海全域の塩業が理解できるものと考えられる。

(4) 株式会社日本資糧文書

徳島市が発祥の地である株式会社日本資糧の本社文書である。株式会社日本資糧は水あめを製造している会社であるが、本社の名古屋移転にともない、寄贈されたとのことである。本文書についても目録を複写させていただいたが、県立文書館の性格上（所蔵それ自体への疑義も含め）、公開までには時間がかかるようである。

(5) GHQ制作・映像フィルム

GHQが日本占領にあたって各地で上映した教育・啓蒙・宣伝フィルムである。全体で約 1000 本あるとされるが、このうちの 200 本を徳島県立文書館は所蔵しており、単一館としては最大の所蔵数を誇っている。現在、NHKが全巻複写、VHS化を進めているとのことである。なお、昭和 30・40 年代の広報フィルム（16 ミリ）も多数所蔵しているとのことであった。

他にも、麻名用水関係文書（現在展示中）の諸史料もある。蜂須賀家の史料については、国立史料館の蜂須賀家文書をマイクロで所蔵するとともに、一部紙焼きし、冊子で公開している。また、蜂須賀家熱海別邸所蔵の文書を原文書で所蔵している。

現在、徳島県立文書館では、空襲により戦前期の公文書の多くを焼失しているため、地方文書等の諸家文書を精力的に収集している。反面、県教育委員会のもとにあるため県庁文書については、移管等が進んでいない状況にある。また、1996 年より、徳島県人の北海道移民に関する史料を精力的に収集しており、多角的な展示を行なう予定とのことであった。

収集目録

「徳島県立文書館 古文書整理状況」（平成 12 年 3 月現在 総点数 6 万 3846 点、コピー）

「日本資糧」目録（コピー）

「鳴門塩業株式会社所蔵資料目録」（コピー入手）

『徳島県立文書館年報』第 2 号、平成 10 年度（平成 11 年 6 月）

徳島県立文書館『文書館だより』第 13 号（平成 11 年 7 月 15 日）

徳島県立文書館『文書館だより』第14号（平成12年2月1日）

寄贈資料

「徳島の復興」（文化の森開園5周年記念事業一戦後50年をみつめて一）（平成7年10月17日）

「名所図会の世界」（第12回企画展）（平成8年8月6日）

「阿波商人鹿島屋」（第13回企画展）（平成8年10月29日）

「校誌の世界」（第13回資料紹介展）（平成9年1月28日）

「堺屋弥蔵 人と暮らし—江戸時代の庶民文化—」（第14回企画展）（平成9年5月7日）

「包む封じる 封紙・封筒の世界」（第15回資料紹介展）（平成10年1月27日）

「阿波国文庫と淡路国文庫」（第17回企画展）（平成10年10月27日）

「徳島県人の北海道移住」（第17回資料紹介展）（平成11年2月2日）

「和田津新田の成り立ち」（第18回企画展）（平成11年4月27日）

「藍から米へ 麻名用水の歴史」（第19回資料紹介展）（平成12年2月1日）

徳島県立脇町高等学校『芳越歴史館所蔵 資料目録 図書目録』（平成8年）

「徳島県立文書館所蔵目録」（平成12年6月刊行予定）

4、大平正芳記念館

東京から大平正芳記念財団の大平健氏（大平正芳親戚）および現地秘書のご子息齋藤幸則氏（讃岐街詰株式会社代表取締役）からお話を聞いた。

大平正芳記念館は、昭和60年6月、ご遺族から提供された「大平文庫」を基盤に、観音寺市大平事務所を改装して設立された。展示の中心は、昭和47年の日中国交回復、昭和53年首相就任以降、昭和55年の衆参同日選挙の際中、急逝するまでの写真・書簡・記念品等であり、展示室はこれらの史料で埋め尽くされている。

今回の調査に際して、所蔵庫内および同館が所蔵している全ての史料について見せていただくことができた。財団が経営し、専門学芸員もいない事から目録等はなく、多くの史料が未整理のままとなっている。とはいえ、近代日本関係史料の保存に対する全般的な認識において、このような人物記念館が存続していることこそが、重要ではないかと考えられる。

現在、大平正芳記念財団では、大平正芳氏の事績に関するインタビューを出版する予定であるとのことである。このほかの史料については、整理を開始しており、整理・保存を優先し、展示されているもの以外の閲覧は後日を期していただきたい。今後、未整理史料の整理とともに事業の進捗を願ってやまない。

所蔵史料群は、二つの史料群から形成されている。一つは、大平正芳関係史料であり、もう一つは、津島寿一関係史料である。

調査史料

1、大平正芳関係史料

- (1) 日記・日誌 (2) 書簡 (3) メモ (4) 書額等 (5) 原稿 (6) スクラップブック
(7) 映像史料 (8) 大臣会見録 (9) 葬儀関係 (10) その他

(1) 日記・日誌

昭和 53 年、「私の履歴書」を自ら執筆したとされる大平正芳は、講演原稿等をこまめに書いていた。このため、公務や党務・閣務が忙しくなる前の昭和 20・30 年代は、自ら日記（備忘録）を書いていたとのことである。また、手紙等も自らしたためたとされるが、世田谷区瀬田の自宅が焼失したため、その全てが失われた。このため、記念館が所蔵している日記・日誌は、秘書官であった娘婿の森田一氏（現自民党代議士）の手によるものである（備忘録）。ただ、本日記・日誌は、森田代議士の所蔵となっており、閲覧も含め記念館としては一存では対応できないということであった。

(2) 書簡

未整理のものが約 10 通程度あった（私的なものか）。他に池田勇人宛吉田茂書簡、（年月不明）12 日付大平夫妻宛津島寿一書簡（大平の大蔵省時代）、3 月 24 日付大平正芳宛大泉行雄書簡が展示されている。

(3) メモ

大平正芳用箋に書かれた「池田首相辞意表明・1964 年 10 月 25 日～」を含む、3 冊のポケットファイルがあり、約 120 点ほどがある。

(4) 書額等

故二階堂進氏より大平家ご遺族に返却された次のような漢詩の額装がある。

長城延々六千里
汲尽蒼生苦汗泉
始皇堅信城内泰
不知抵抗在民心
山容城壁默不語
榮枯盛衰凡如夢

これは、日中共同宣言当日、北京迎賓館で書かれたものであり、日中間で内容的に問題となった（始皇帝と毛沢東をかけたとされる）。

(5) 原稿

『私の履歴書』および『大平正芳回想録』関係の原稿等を所蔵している。コピーも含めて、未整理の回顧録等の原稿が、段ボール約 10 箱分ある。また、福川氏所蔵であった未整理の段ボールが、約 6 箱分ある。

(6) スクラップブック

昭和 46 年から同 55 年までのもので、約 120 冊を所蔵している。

(7) 映像史料

映画 8 本、オープンリール 11 本、ビデオ（ベータ）約 80 本、カセットテープ 300 本。

(8) 大臣会見録

1972年から74年にかけて、外務省で行なわれた記者と大臣との会見について、外務省が作成したもののコピー（決裁書類のコピー）。幅10センチの外務省四つ穴ファイルで6冊（うち公開済3冊）ある。

(9) 葬儀関係

世界各国首脳の方名録および弔辞を所蔵している。

(10) その他

世界各国首脳の方サイン等が入った交換写真等がある。また、国会での大平正芳の全答弁・質問について、コピーを所蔵している。

2、津島寿一関係史料

(1) 遺品 落款 公用旅券 辞令

(2) 書簡

(3) 手帳

津島家より大平正芳が預かっているとされるものである。

(2) 書簡

大正8年1月5日付津島寿一宛松永安左エ門書簡、昭和27年4月23日付津島寿一宛吉田茂書簡、年月日不明（戦前）津島寿一宛荒木貞夫書簡等が展示されている。

(3) 手帳

旧制一高時代の津島の日記的な手帳である。

収集資料

「大平正芳記念館」（パンフレット）

「平成11年度大平正芳記念財団の事業」（財団法人大平正芳記念財団、1999年6月12日）

「大平正芳記念財団レポート」第17号（1999年8月）

⑨調査者 梶田明宏（宮内庁書陵部主任研究員）

出張期間 平成12年11月18日～11月21日

調査機関 北海道立図書館 北方資料室（江別市文京台台東町41）

調査実施日 平成12年11月18日

調査概要

目録は『北海道立図書館蔵書目録』に掲載されたもののほかに、文書別に個別に作られた目録も存在する（但し部内用も含む）。個別文書目録はコピーしか入手手段はないが、『北海道立図書館蔵書目録』と重複するものがあり、すべては収集しなかった。また、同館は、他機関が所蔵する北海道に関係する文書類をマイクロフィルムにて収集しているが、これは今回の調査対象からははずした。

その他、道庁・市役所・町村役場関係の文書、諸団体（商工会議所、石炭連盟など）の

資料も数多く所蔵している（道庁関係史料の一部は道立文書館へ移管した）。これらは、個人・家わけ文書のように特殊コレクション扱いされておらず、一般図書として分類・配下されており、全体像の把握が困難である。室長よりこれらの史料についてもできる限り調査していただけるとのお話があり、後日連絡をいただくことをお願いした。

調査史料

以下に、直接書架を拝見して、確認した史料の一例を掲げる。

「北海道庁公文録」（原本は道立文書館へ移管しコピーを保管）

「札幌市宗教関係書類」

「北海道商工関係参考資料」

「市制・町制施行関係資料」

「北海道石炭連盟資料」

「阿部家文書」 1 阿部政次郎～猪蔵関係文書

2 阿部興人関係文書

3 阿部宇之八関係文書

4 阿部恒関係文書

：目録は『北海道立図書館蔵書目録』第11分冊所収。

（参考：小林真人「北海道立図書館収蔵の阿部家文書について」）

「伊達家文書」：伊達家は北海道にあつて代々林右衛門を称し、場所請負人として名を知られた富商。目録は『北海道立図書館蔵書目録』第11分冊所収。

「北越植民社関係資料」：北越植民社は、越後の北海道入殖団体。目録は、『北海道立図書館蔵書目録』第11分冊、同第24分冊、『北の資料』16（追加分）に掲載。

「河野常吉資料」：北海道史編纂関係資料。目録は『北海道立図書館蔵書目録』第11分冊、『北の資料』11・16（追加分）に掲載。

「松崎家文書」：石川県の商店、道内各商店との取引関係。目録は『北海道立図書館蔵書目録』第11分冊所収。

「中△（うろこ）向井商店関係資料」：目録は『北海道立図書館蔵書目録』第11分冊掲載。

「中村多四良資料」：小樽中村商店・中村農場関係書類。目録は『北海道立図書館蔵書目録』第11分冊掲載。

「桜庭儀作文書」：目録は『北海道立図書館蔵書目録』第11分冊に掲載。

「桜庭為四郎文書」：桜庭為四郎文書目録がある。

「佐藤正克文書」：目録は『北海道立図書館蔵書目録』第11分冊に掲載。

（参考：北海道史研究協議会『会報』66）

「関場理堂資料」：関場理堂は大正5年北海道医師会創設以来終生会長を務めた。目録は『北海道立図書館蔵書目録』第11分冊に掲載。『北の資料』17に資料紹介あり。

「田辺朔郎鉄道資料」：主に明治30年代。目録は『北海道立図書館蔵書目録』第11分冊に掲載。『北の資料』16に資料紹介あり。

「田中正右衛門文書」：箱館の間屋・大津屋。目録は『北海道立図書館蔵書目録』第11分冊に掲載。『道立図書館報』67に所蔵資料紹介あり。

「寺田省婦資料」：目録は『北海道立図書館蔵書目録』第11分冊に掲載。

「梅沢家資料」：岩内町梅沢商店関係。目録は『北海道立図書館蔵書目録』第11分冊。

「山本家資料」：目録は『北海道立図書館蔵書目録』第11分冊に掲載。

「棒二森屋資料」：目録は『北海道立図書館蔵書目録』第24分冊に掲載。

「蝦夷地巡察記」：目録は『北海道立図書館蔵書目録』第24分冊に掲載。

「藤田商店関係資料」：目録は『北海道立図書館蔵書目録』第24分冊に掲載。

「福島屋文書」：目録は『北海道立図書館蔵書目録』第24分冊に掲載。

（参考：「福島屋について」〔メモ〕）。

「後藤邦義資料」：道庁在勤関係・シベリア出征関係。目録は『北海道立図書館蔵書目録』第24分冊に掲載。

「橋本堯尚関係資料」：北海道史に関する諸資料。目録は『北海道立図書館蔵書目録』第24分冊に掲載。

「安田徳治関係資料」：安田紡績所関係。目録は『北海道立図書館蔵書目録』第24分冊。

「林家文書」：目録は『北の資料』36に掲載。『道立図書館報』101に所蔵資料紹介あり（「余市運上家・林家文書」）。

「一条忠郎資料」：一条は会計検査院、逓信省などをへて総監府鉄道管理局長。北海道庁理事官として在勤中の資料を遺族から寄贈されたもの（昭和51年）。『北の資料』17に目録と資料紹介あり。

「石山織之助一族関係日誌」：石川与五兵衛日記・石山織之助日記等。「石山織之助一族関係日誌目録」あり。

「札幌競馬場資料」：『北の資料』16に目録と資料紹介あり。

「渋谷十郎日記」：76冊、渋谷十郎は松前藩士、正義隊に参加。後にキリスト教徒として禁酒運動などを展開。目録はなし。

収集目録

『北海道立図書館蔵書目録』第11分冊（北海道立図書館、昭和54年）

『北海道立図書館蔵書目録』第24分冊（北海道立図書館、平成6年、）

その他は、「北海道立図書館北方資料室所蔵近代文書 目録・参考資料集成」として一括整理されている。

調査機関 北海道開拓記念館（札幌市厚別区厚別町小野幌）

調査実施日 平成12年11月19日

調査概要

北海道開拓記念館は、有史以前から現代に至るまでの、北海道に関するあらゆる事象を対象にした博物館で、展示・所蔵物は自然・考古・風俗生活資料など、さまざまな分野に

わたっている。文書資料も含め、同館の所蔵物は、

- 1 目録化されているもの
- 2 登録台帳に登載されているが、目録化されていないもの
- 3 目録にも台帳にも登載されていないもの

に分類される。今回の調査は、上記の1、2について行なった。同館所蔵物の目録は「北海道開拓記念館一括資料目録」として、現在34集までが発行されている。これ以外に内部目録はなく、登録台帳があるのみである。目録はコレクション別に発行されている。そのうち半数以上は、文書以外の考古出土品などのコレクションである。

調査史料・収集目録

1、目録化されているもの

近代文書を含むコレクションの目録として、以下のものを収集した。

『石附忠平寄贈資料目録』：石附忠平は、教員をへて北海道教育評論社取締役となった人物で、教科書・副読本等のコレクションである。

『近藤家資料目録』『近藤家資料目録・続編』：近藤家は松前藩士で、12代武明・13代小文庫父子は、幕末・維新期の松前藩に関わる資料として重要。（参考：「近藤家資料」（『北海道開拓記念館だより』1980.1.31）。

『内田家資料目録』：内田澁（1858-1933）は、北海道庁勤務。退職後農場経営を行ない、道会議員もつとめる。札幌農学校時代のノート、日記・手帳、クラークの書翰などがある。（参考：「札幌農学校生内田澁のノート」、『北海道開拓記念館だより』所収）。

『近藤医院資料目録・1』：近藤医院は、明治35年近藤清吉によって開設された。長男雪一の代の昭和33年に解体される際に、寄贈された資料である。日記・ノート・医療記録・医学関係文献など。『近藤医院資料目録・2』は医学関係文献および非文書資料なので収集せず。

『北海道拓殖銀行資料目録・1』：北海道拓殖銀行が破綻し、同銀行の史料室に記念物として保管されていた資料が一括寄贈された。本目録はそのうち文書資料に関するもので、続編は未刊。なお、拓銀の資料のうち文献は道立図書館に寄贈され、その他残りの文書類は現在清算事業団が管理し、将来的に道立文書館へ移管される予定。（参考：「北海道拓殖銀行寄贈資料紹介展」、『北海道開拓記念館だより』所収）。

2、登録台帳に登載されているが、目録化されていないもの

目録化されておらず、台帳のみに記載されている史料のうち、コレクションとして分量がまとまっているものには、以下のものがあつた。

「札幌通商産業局寄託資料」：主として炭坑関係の史料

「楠正巳関係資料」：昭和46年、書翰等あり。（参考：「楠家資料を追って」、『北海道開拓記念館だより』1978.5.31）

「北炭札幌事務課寄託資料」：（参考：「北炭札幌事務課寄託資料について」、『北海道開拓記念館だより』1982.1.15）

「住友鴻之舞鉦山資料」

「日曹天塩炭坑資料」

「茅沼炭坑資料」

「青山家資料」：小樽の青山家のニシン漁場文書

「小竹家資料」：新聞のコレクション。（参考：「小竹家資料のこと」、『北海道開拓記念館だより』1981.2.14）

収集目録

『石附忠平寄贈資料目録』（「北海道開拓記念館一括資料目録」第8集、昭和50年）

『近藤家資料目録』（同 第9集、昭和51年）

『近藤家資料目録・続編』（同 第15集、昭和58年）

『内田家資料目録』（同 第21集、平成元年）

『近藤医院資料目録・1』（同 第26集、平成6年）

『北海道拓殖銀行資料目録・1』（同 第34集、平成12年）

その他参考資料として、『北海道開拓記念館だより』の同館所蔵近代史料に関する記事を収集した。

調査機関 北海道立文書館（札幌市中央区北3条西6丁目）

調査実施日 平成12年11月20日

調査概要

北海道立文書館は、北海道の歴史に関する膨大な公文書、私文書を保存公開している。また、道内外の他機関所蔵の北海道史に関わる史料をマイクロフィルムなどで積極的に収集公開している。こうした原本と複製収集史料とは、目録の上では同等に扱われている。

公開されている文書名については、同館の「利用の手引き」、および今回収集した「閲覧できる私文書一覧表」「閲覧できる公文書作成機関別一覧表」などで全体像を確認することができる。それぞれの文書群の目録は、順次作成して関係機関にも配布しているとのこと、残部があるものについては、別記のように正式な依頼文を送って寄贈をうけることができる。

『北海道立文書館所蔵目録』

『北海道立文書館所蔵公文書件名目録』

所蔵私文書のうち、目録として公刊されているものは、「柳田家文書」（実業家・衆議院議員柳田藤吉関係、『北海道立文書館所蔵目録』1、2）以外にはない。他の私文書については、目録は閲覧室に配架されている「私文書目録」によって概要を確認することができる。そのうち、国立国会図書館憲政資料室、国文学研究史料館など他機関が所蔵する文書の北海道関係を複製して収集したものがかなりの比重を占め、原本を所蔵する史料についても、商店の経営史料、開拓関係の史料などが多く、必ずしも膨大な私文書目録をすべて複製する意味はないと考え、今回は特に「坂本直寛文書」「北村家文書」についてのみ

目録を複写した。

調査史料

「坂本直寛文書」：坂本直寛は、坂本龍馬の甥。自由民権運動に挺身し、後にキリスト教に入信し北海道開拓に従事した。史料はキリスト教関係の論説草稿が中心。

「北村家文書」：北村家は、甲斐国中巨摩郡鏡中条村で酒造業を営んでいたが、明治20年代、北村雄治の代のときに北海道開拓に乗り出した。史料は、1.醸造業関係文書、2.北村農場関係文書、3.北村茂兵衛歳治関係文書、4.北村茂兵衛歳米関係文書、5.北村雄治関係文書、6.北村颯関係文書、7.北村ちかよ関係文書、8.北村雄一関係文書、9.その他に区分されており、農場経営や地方政治にかかわる史料を多く含む。来翰類には品川弥二郎、神鞭知常、田口卯吉、東條英教、富田鉄之助、根津嘉一郎などの中央の著名人が多く、興味深い。

収集目録

「利用の手引き」（公開公文書・私文書一覧、北海道立文書館、1998年、複写）

「閲覧できる公文書作成機関別一覧表」（同文書館、1998年7月現在、複写）

「坂本直寛文書」（複写）

「北村家文書目録」（複写）

調査機関 北海道大学附属図書館 北方資料室（札幌市北区北八条西5丁目）

調査実施日 平成12年11月21日

史料目録として、以下の2冊の寄贈をうけた。

『開拓使外国人関係書簡目録』

『旧外地関係 同図書館所蔵資料目録』

上記目録に収録されたもの以外に、開拓使公文書、札幌農学校関係資料、内村鑑三・新渡戸稲造関係資料、松前藩奥平家文書等の近代文書が所蔵されているが、それらはまとまったコレクションとしてではなく、同図書館編の目録『日本北辺関係旧記目録』（北海道大学図書刊行会）に他の資料とあわせて分類されている。また、膨大な北海道関係の写真コレクションがあるが、これは『明治大正期の北海道 写真と目録』（北海道大学図書刊行会）として刊行されている。

その他、北海道大学には札幌農学校以来の北海道大学関係者（佐藤昌介、宮部金吾、高岡熊雄等）の関係者の資料が断片的に存在する可能性があるとのことであったが、必ずしも正確な情報は得られなかった（農学部、北大植物園、宮部記念館等に問い合わせる必要がある）。

収集目録

『開拓使外国人関係書簡目録』（北海道大学附属図書館、昭和58年）

『旧外地関係 同図書館所蔵資料目録』（同図書館、昭和50年）

概況

北海道にはアイヌなどの先住民族の文化があり、近世においては場所請負制と呼ばれる松前藩を介した蝦夷地支配、近代においては開拓使、北海道庁による開拓が行なわれるなど、日本の他地域とは異なった歴史を持っている。特に、現在の北海道の社会は、近代以降の移民・開拓によって形作られたという意味においては、北海道の歴史は非常に浅いということがいえる。

こうした歴史の特殊性、社会の成立の新しいさのため、北海道における「北海道史」に対する意識も日本の他の地域と異なる側面があるように思われる。それは、歴史が浅い、社会の成立が新しいが故に、北海道の歴史に関する史料となるものは、できる限り残さなければならない、という意識である。したがって、文書館等に残された歴史史料は、量的には相当な分量である一方、経済史、および社会・生活史の比重が高く、一般には歴史史料として残されることの少ない、地方の商店などの史料が多いことが特徴となっている。

その一方で、北海道における地方政治・教育・産業・経済・地方自治などの諸分野で地域の発展に貢献した人物、あるいは北海道出身で中央の政治・経済その他の分野で活躍した人物の業績にかかわる史料が残されていることが少ないような印象を受けた。実際にそうした史料が現存することが少ないのか、文書館関係者、北海道史に関わる研究者の意識があまりそちらに向かないからなのかは、はっきりとわからない。

①調査者 武田知己（東京都立大学法学部助手）

出張期間 平成 13 年 1 月 25 日～1 月 27 日

調査機関 東国東郡安岐町教育委員会（大分県東国東郡安岐町大字瀬戸田 740 番地）
杵築市重光邸（大分県杵築市）
大分県立先哲史料館（大分県大分市大字駄原 587 番地の 1）
大分合同新聞（大分県大分市府内町 3 丁目 9 番 15 号）

調査の目的

今回の調査は、先に西川誠氏が行なった大分県内における近代史料の所在調査の補足をふまえて、特に重光葵（元外務大臣）の関連史料の調査を重点的に行なった。調査対象機関は、1.東国東郡安岐町教育委員会（山溪偉人館）、2.杵築市（重光邸等）、3.大分県立先哲史料館、4.大分市大分合同新聞社である。

大分県下に前述のような重光関連の記念館が多く残されているのは、大分が重光の出身地であることによる。重光関連史料については、衆議院憲政記念館にある『重光葵関係文書』がよく知られている。だが、それ以外の史料調査は必ずしも積極的に行なわれていない。例えば、国会図書館憲政資料室所蔵の『上田仙太郎関係文書』には、重光の駐華公使時代から駐ソ大使時代の上田宛書簡が残されているし、ケンブリッジ大学図書館にも、駐ソ大使時代の外交電報が一揃い残されている。大分県下の史料については、東国東郡安岐町教育委員会と杵築市重光邸に関して、『軍事史学』36 卷 2 号（2000 年 9 月）に庄司潤一

郎氏による紹介があるものの、そこからは大分県下には見るべき史料が全くないといった印象を受ける。これに対して、今回の調査は、重光葵関係史料の所蔵状況を実地に赴いて把握することに主眼をおいた。とりわけ先哲史料館での調査は、先に西川誠氏が行なった調査の追跡調査という意味合いがあるが、同館に対する調査概要は西川氏の報告を参照されたい。

また、調査の過程で、大分合同新聞文化センター出版編集員の清原芳治氏のお話を伺うことが出来た。清原氏は故竹光秀正氏（元重光葵秘書）の談話録をまとめられた方であり、昨年（2000年）『私の人生・竹光秀正』（自費出版）を出版された。中央ではほとんど知られていないこの著作について、またその談話録をまとめられる過程で故竹光氏並びに関係者から得た大分人脈と戦後政治との関わりについてのお話は実に興味深かった。

以下、各機関・個人に対する調査の概要を述べることとする。

調査機関 東国東郡安岐町教育委員会

調査概要

重光の出身地である東国東郡安岐町には、同町教育委員会が管理している山溪偉人館（重光会館）という重光葵の記念館がある。かつて藤原姓を名乗っていた重光家は、大友氏に仕え、大友氏が滅びて後は、国東半島に逃れ、国東町から後にこの安岐町に転居した。重光より二五代前の事である。つまり、安岐町は重光本家のある町である。ちなみに、重光葵は、二六代目の重光家の後継ぎとして明治三一年に養子縁組を結んでいる。

この山溪偉人館は、元来、重光の遺品中心の記念館であるとされてきたが、同館作成の目録を見ると文書類も若干保存されている。かつて憲政記念館が同館を調査したこともあり、山溪偉人館の情報を聞き知ってはいたが、今回の調査は、そうした事前のリサーチでの印象をくつがえすものであった。重光の開戦直前、終戦直前の動向をうかがうことのできる文書史料が所蔵されていたからである。外交史研究の立場から見ても極めて重要な史料であり、引き続きアプローチを続けたいと考えている。また、陳列品の中に長年重光の秘書をしていた竹光秀正氏についての書籍があり、その出版元である大分合同新聞文化センターに問い合わせ、著者の清原芳治氏と会うことにした。この書籍は非売品として昨年（2000年）に出版されたばかりであった。

当日案内してくれた同町教育委員会・文化財専門委員の松本啓子氏は、丁寧にそれぞれの陳列品の説明をしてくださった。郷里での重光の評判等も伺ったが、その内容は中央では知ることの出来ないものばかりであった。更に、安岐町では毎年一月に重光向陽祭という式典が催されている。その関係者の連絡先等を教えてもらうようお願いし、今後も調査を継続したいと考えている。また、同館で作成した小冊子『元外務大臣・重光葵の生涯』（重光会・安岐町教育委員会）を入手した。

調査機関 杵築市重光邸

調査概要

次に重光が幼年期を過ごした杵築市にある重光邸を訪問した。電話連絡した際には、史料類は一切所蔵されていないとのことであったが、重光の旧蔵図書が保管されていることは事前に承知していた。杵築市は戦災を逃れた為、武家屋敷が残っている風雅な町である。政治関連では重光の他に、佐野学の家や一松定吉の家が残っており、何れも観光案内者がいる。例えば代々医者を務めていた佐野学の家では、佐野家の由来や地元での評判等を説明してくれるといった形である。

重光の生家であるが、佐野邸や一松邸とは比較にならないほど粗末なものであった。重光自身は、彼が東大に進む頃には家政正に暗黒であったと回顧しているが、そこまでの貧しさであったかどうかは別にしても平屋の古い家であったことは事実である。この重光邸は、漢学者であった父親・直恵の号を取って別名「無跡庵」という。ここも杵築市を定年退職された説明員が案内してくれるという形であり、重光がソ連大使時代に詠んだ和歌を装丁した屏風や写真が展示されていた。和歌には「源重光」「藤原重光」とあり、ソ連大使時代の重光が和服で写っている写真がある。このころの重光がややナショナルスティックになっていただけでなく、自らの家柄に対する強い関心を深めていたことが分かる貴重な遺品である。そして何故か葵ではなく弟の蔵氏の英霊が祀られていた。生家の管理は同市の教育委員会が行なっているものと思われるが、杵築市の重光家を継いだのが蔵氏であったことと関係しているかもしれない。展示品には、先に述べた屏風以外に、特に目新しい史料はなかったが、蔵に重光の青年期の蔵書が保管されているとのことであった。閲覧をお願いしたものの、許可を得ることはできなかった。今後何らかのアプローチ方法を考えて見たい。

調査機関 大分県立先哲史料館・大分合同新聞

調査概要

翌日は、大分市に移動し、先哲史料館で、西川氏の調査を踏まえ、安藤百老宛重光書簡と一万田尚登日銀総裁書簡を閲覧した。重光の書簡にはこれと言って目立ったものがなかった。安藤氏は地元の長老のようで、彼への礼状のようなものばかりであった。一方、一万田の柳田誠二郎宛書簡は貴重なものだと感じた。一万田は、柳田に金融政策を十分に展開するためには政治的安定が必要である、といている。その思想は、後の一万田の政治家への転向を示唆するものでもあるように思う。然るべき手続きを取ってアクセスの方法を講じるか、或いは史料紹介と言う形で紹介すべき史料であろう。

また、杵築市に関係のある政治家に海軍の堀悌吉がいるが、その調査を始めたいと考えているとも聞いた。史料は所蔵されているようだ。矢野龍溪関係資料が有名なように同館は調査と出版がある程度リンクしており、資料集や評伝も出版している。堀や重光などについては、同館の今後の調査に何がしか協力していきたい。

次いで、大分合同新聞で前述の清原芳治氏と会い、『私の人生・竹光秀正』を譲っても

らい、氏が執筆中の『秘録・大分の戦後政治』1・2巻を購入した。また、竹光氏の話や大分の戦後政治についても二時間ほどお話を伺った。戦前の重光が、鈴木茂三郎や平野力三といった人物との交流があったこと、戦後に重光が社会主義を学んでデモクラシーを実現したいと欲していたこと、その話を受けて竹光氏が大分県議で社会党員として立候補したことなどを聞いた。貴重なお話であった。竹光氏が所蔵していた史料がつまりは憲政記念館にある重光文書であるが、まだ竹光氏宅に重光の遺品が残されているということである。清原氏とも連絡を取り今後の調査を続けていきたい。また、清原氏は、同じ大分出身の外交官・阿部守太郎の評伝を大分合同新聞に連載中である。阿部の評伝は管見の限りではかかれていないので貴重な情報としてここに記しておく。また、同氏は戦時期の中央政界における大分人脈についての本も執筆されているところである。

収集資料

『私の人生・竹光秀正』（清原芳治、自費出版、2000年）

『秘録・大分の戦後政治』1・2巻（清原芳治）

『元外務大臣・重光葵の生涯』（重光会・安岐町教育委員会）

成果

今回の調査で入手したのは『私の人生・竹光秀正』『秘録・大分の戦後政治』1.2巻の三巻のみであるが、このほか聞き取り調査で得た情報そのものについては、公開すべきでない情報も含めて実に貴重なものばかりであった。史料調査の第一歩として、史料所有者との間の信頼関係が醸成できたことも今回の調査の大きな成果の一つである。今回の調査を準備段階として、今後、継続的に関係者と接触していきたいと考えている。